

## また行きたくなる地域・宿を目指して

### 株式会社 吉田ふるさと村 (国民宿舎 清嵐荘)

- 代表者名 高岡 裕司
- 所在地 〒690-2801 島根県雲南市吉田町吉田1047-2  
※出雲湯村温泉 国民宿舎清嵐荘  
〒690-2314島根県雲南市吉田町川手161-4  
<https://www.y-furusatomura.co.jp/>  
※国民宿舎清嵐荘 <https://www.seiranso.jp/>
- 会社HP <https://www.y-furusatomura.co.jp/>
- 認定区分 地域資源
- 認定事業名 日本のものづくりの原点・「たたら製鉄」を取り巻く体験観光(製鉄・鍛冶)プログラムの開発および販路開拓
- 認定日 平成29年2月3日

吉田村(よしだむら)と呼ばれる地域が島根県にある。正しくは、島根県雲南市吉田町のことであり、かつての「吉田村」のことを指している。

「よしだむら」は、たたら製鉄による日本の和鉄生産の中心地として栄えてきた。たたら製鉄とは、鉄の原料となる砂鉄を、木炭が焼ける熱によって還元し鉄を得る方法のことであり日本刀や刃物などに利用された。

### 1. 株式会社吉田ふるさと村とは

株式会社吉田ふるさと村は、昭和60年、自治体と地域住民が共同で出資をする第三セクターとしてスタートした。

設立当時、吉田村は人口流出が進んでいた。このまま推移すれば村がなくなってしまうとの危機感に駆られた村民は、雇用の場の創出と地域経済の活性化を目的に、(株)吉田ふるさと村を設立した。主な事業内容は、農産加工品の製造・販売、観光事業、水道事業、旅館の運営等である。

営業開始後にはすぐ「餅つき実演販売」を開始した。設備投資を行わず、手作りでの製造とした



代表取締役 高岡裕司 氏



清嵐荘外観

ことも特徴の一つであるが、その餅は以降長きにわたり高い評価を受けている。

また、同社の主力商品は、たまごかけごはん専用醤油「おたまはん」である。世界初の商品として一躍ヒット商品となり、世に卵かけご飯ブームを巻き起こした。これを好事例とし、現在も斬新なアイデアと創意工夫により新たな商品やサービスを提供すべく事業活動に取り組んでいる。

また、自らが中心となり、地域振興を目的としたイベント「日本たまごかけごはんシンポジウム」を開催している。毎回、全国各地から多数の参加者(観光客)が訪れ、地域のにぎわいを創出するとともに、豊かな自然や食、鉄の文化に触れていただいている。「たまごかけごはん」の聖地として広く認知されたことは、山の中の一企業であっても、思いつき次第でNo.1になれるという好事例でもある。

### 2. 観光事業への進出と体験観光の提供

平成21年には観光事業部を新設し、第三種旅行業登録を行い、旅行会社としての営業も開始した。



清嵐荘露天風呂

清嵐荘客室

平成28年には「たたら製鉄」が日本遺産に認定されたことをチャンスととらえ、「たたら製鉄」に関連する研修商品・着地型商品の開発・販売を行ってきた。これらの活動により地域への誘客促進という役割を果たしており、地域から頼られる存在である。そして、令和元年には、「国民宿舎清嵐荘」のリニューアルが完了し、再び運営を開始した。

### 3. 清嵐荘の課題

清嵐荘は、出雲湯村温泉の旅館（国民宿舎）である。出雲湯村温泉は、「出雲国風土記」にも記された歴史ある名湯であり、四季折々の自然の美しさに囲まれ、周辺には神話にちなんだ名所も多数存在している。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、集客に苦戦をしていた。そこで同社では、清嵐荘を起点にした「with コロナの時の中で選ばれる宿泊プラン・ツアープラン作り」および「効果的な集客方法」を課題とし、中小企業基盤整備機構の専門家の意見を交えて対策を講じてきた。

現在の主力商品は、「奥出雲和牛を堪能できる贅沢会席プラン」である。これは、ご当地のブランド牛「奥出雲和牛」の陶板焼を中心とした会席料理を売りにしたものであり「日頃の疲れを癒し里山リゾートでプチ贅沢を」とのコンセプトのもと、温泉に浸かって疲れを癒すとともに、夕食には奥出雲和牛をはじめ、地元食材である野菜やキノコ、川魚などをふんだんに使用した会席を楽しむこと



奥出雲和牛会席

ができるプランであり、人気が高い。

このプランは、地元産の徹底活用、そして遠くからでもわざわざ足を運んでいただけるような商品を提供しようとスタッフ一同で考え生まれたものである。商品づくりのため社内での勉強会やワークショップも実施した。さらには、インバウンド顧客向けに、「餅つき体験」ができるプログラムも開発し提供を開始した。まさに吉田ふるさと村の発祥ともいえる「餅」をテーマとした商品であり、今後に期待をしたい。

一方で「スタッフの教育」も課題としている。お客様にいかに喜んでご宿泊をいただくか、いかにリピーターを確保するかを最重要テーマとしているため、今後は教育が重要な課題であり、本格的な対策を講じる予定である。

### 4. 今後の展望

課題の解決に向けて、常に留意をしている点は、「よしだむら」らしさである。地域の豊富な地域資源をいかに活用するかを意識するとともに、お客様に「地元の良さをもっと知ってもらいたい」という思いで商品化に取り組んでいきたいと考えている。

そのため、現在、全社一丸で「地元をもっと知る活動」に取り組んでいる。清嵐荘の周囲、地元について、スタッフ自らがよく見て回り、その魅力を十分に理解したうえで商品づくりに生かすよう心掛けている。現在、清嵐荘のスタッフたちは、あらたな発見を集める習慣が身に付きつつある。そして、清嵐荘は、地域の魅力を発信する存在となっている。

#### ～スタッフも、地域も喜ぶ宿へ～

地域外からの誘客を推進するとともに、地域にも愛される存在を目指すためには、「お客様が何度も訪れたい」と思うような宿になる必要がある。地元の魅力を詰め込んだ商品を用意するとともに、「もう一度会いに行きたい」と思わせるようなスタッフが在る宿となることが欠かせない。吉田ふるさと村が運営する清嵐荘は、地域の魅力やストーリーを最大限に生かしつつ、スタッフの育成にも励み、お客様がまた行きたくなる宿を目指している。

中小機構  
支援事例  
検索はコチラ ▶▶▶



[https://www.smrj.go.jp/research\\_case/case/index.html](https://www.smrj.go.jp/research_case/case/index.html)

独立行政法人 中小企業基盤整備機構  
経営支援部 企業支援課 砂子 隆志